

地 球 温 暖 化 対 策 実 施 状 況 書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	栄三丁目ビルディング管理組合
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	名古屋市中区栄三丁目 6 番 1 号
工場等の名称	栄三丁目ビルディング
工場等の所在地	名古屋市中区栄三丁目 6 番 1 号
業種	不動産業、物品賃貸業
業務部門における 建築物の主たる用途	物販店
建築物の所有形態	賃貸しビル等（賃貸ししている建築物）
事業の概要	事業協同組合
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和5年7月31日 ～ 令和5年10月29日		
公表方法		掲 示 閲 覧	（場 所） 栄三丁目ビルディング 防災センター
		ホ ー ム ペ ー ジ	（HPアドレス）
		冊 子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	052-262-6152		

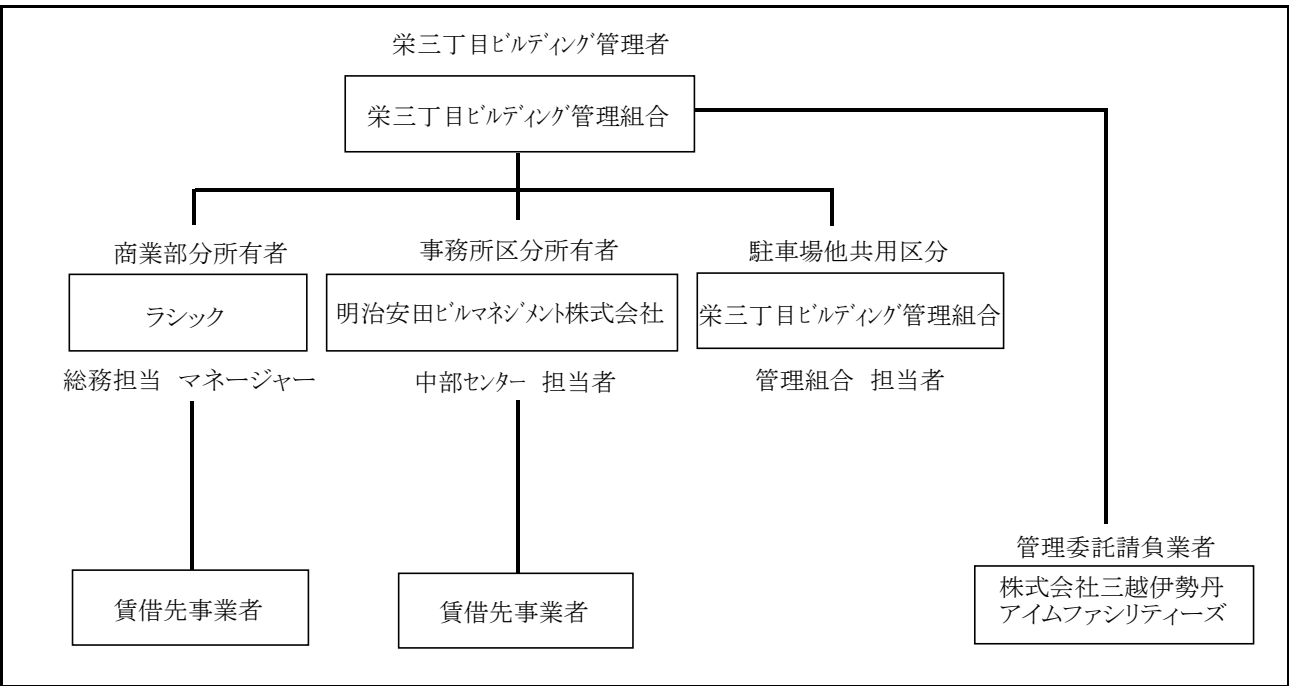
3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

栄三丁目ビルディングは地球温暖化対策をはじめとする地球環境保全の重要性を認識し事業活動のあらゆる分野を通じて持続的発展が可能な社会を実現に貢献します。

1. 継続的な環境改善
P D C A サイクルに基づく環境施策の継続的な改善をはかります。
2. 省資源・省エネルギーの推進
ビルで使用する電気、燃料等のエネルギー使用量を削減します。
3. 廃棄物の発生抑制、リサイクルの推進
廃棄物の発生量を抑制します。
4. 従業員への環境教育と社外への環境コミュニケーションの推進
従業員に対しては環境教育をすすめ、事業外に対しては環境情報の公開をすすめます。
5. 温室効果ガスの排出の抑制に係る目標
温室効果ガスを削減します。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 4 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		6,046	t-CO ₂
（温室①を酸効果ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	6,046	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
温室効果ガス総排出量	5,912	t-CO ₂	6,805	t-CO ₂	6,046	t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			▲ 15.1	%	▲ 2.3	%		%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）						%		%		%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
原単位あたりの排出量										
削減率（対 基準年度）				%		%		%		%
原単位あたりのみなし排出量										
削減率（対 基準年度）						%		%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

新型コロナウイルス感染低下に伴い営業時間等、コロナ対策前の状況に戻したことによるためと考えられる。

- 備考 1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考 2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考 3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
- 備考 4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の実践 冷暖房ファンコイルユニット	・商業区分：冬期（12月～3月）の共用部の冷房専用のF C Uを停止する。 ・共用区分：暖房開始時期を状況をみて調整を行なう。	・令和6年度までに熱の使用量を1%削減する。	冬季、冷房専用FCUの停止 設定温度のこまめな調整
省エネルギー・省資源の実践 照明	・事務所区分：使用してない部屋や昼休みや時間外の消灯を推進する。 ・照明を高効率型、L E Dに順次更新する。	・令和6年度までに電気の使用量を1%削減する。	照明をLEDに更新 不必要な照明の消灯
省エネルギー・省資源の実践 O A機器	・パソコン・コピー機の離席時・退室時のスイッチO F Fを推進する。	・令和6年度までに電気の使用量を1%削減する。	電源オフの徹底の実施
廃棄物の排出抑制	・分別回収を推進し可燃性廃棄物の排出量を低減する。	・令和6年度までに可燃性廃棄物の使用量を1%削減する。	分別回収の徹底

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目 (令和 4 年度) における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用状況

計画期間 1 年度目 (令和 4 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

階段を積極的に使用